

社会の持続可能な発展に 貢献するため、社員一丸となり 環境活動に取り組みます

大平洋金属と 地球環境問題について

当社は、ニッケル鉱石を製錬しステンレス鋼の主原料となるフェロニッケルを製造しており、地球からの多大なる資源の恩恵を受けて製錬事業を行っております。

それ故に、当社の持続可能な発展ならびに社会の持続可能な発展に貢献すべく、「かけがえのない地球を守るためあらゆる環境問題に積極的に取り組もう」を経営

方針として掲げ、社員一丸となって環境問題に取り組んでおります。

当社は製造工程で多くの電力、化石燃料を使用することから、地球温暖化対策、省エネルギー対策は真っ先に取り組まなければならない課題です。これまで、エネルギー効率の高い施設への変更、省エネ診断等を生かした各現場における省エネ活動の徹底などを行って参りましたが、今後より一層の取り組みが必要であると考えております。

特に東日本大震災以降、国内では原子力発電所の長期停止に伴い、火力発電への依存が高まっており、このエネルギーサプライの変容は、化石燃料の消費を加速しCO₂排出量の益々の増加をもたらしています。これらの地球温暖化に対する対策は、当社が持続的な成長を続けるためにも、長期的な視野をもって検討・実施していかなければならない課題であると考えております。

副産物であるフェロニッケルスラグについては、環境に優しい資材として、路盤材やコンクリート用細骨材等として加工し販売しています。フェロニッケルスラグを加工した路盤材と、自然石を採掘して製造した路盤材を、LCA*手法を用いて評価した結果、フェロニッケルスラグを加工した路盤材が、製造過程におけるCO₂排出量が少なく環境優位性が高いことが判明しました。詳細は、本報告書に「TOPICS」として掲載しております。これまで、フェロニッケルスラグは自然破壊を伴わないことから、環境に優しい商品であると認識していましたが、CO₂排出量から見ても環境に優しい製品であることが分かり、セールスポイントが一つ加わったものと思っております。

* LCA (Life Cycle Assessment) : 製品に関する資源の採取から製造、使用、廃棄、輸送など全ての段階を通して環境影響を定量的、客観的に評価する手法

中期経営計画（PAMCO-27）と 環境対策の方向性

当社では、2013年3月に新たな中期経営計画「PAMCO-27」を策定しました。当社を取り巻く経営環境の変化を踏まえ、経営基盤の強化・効率化を図るため「ニッケル資源調達の長期安定化」「販売政策の強化」「施設投資等による効率化・安定化」を主要目的として掲げました。これらを推進する中で、環境配慮や安全衛生の確保、コンプライアンスの強化を進めて参ります。

中でも、「施設投資等による効率化・安定化」では、当社が重要な経営課題としている省エネルギー及びCO₂排出量削減に関する具体的対策として、電気炉の更新、鉱石乾燥施設で使用する重油をCO₂排出量の少ない天然ガスへ転換することなどを検討しております。

また、鉱石などの資源調達の長期安定化については、当社による現地企業に対する支援などが重要となり、鉱石採掘後のリハビリテーションなど、現地企業が抱える環境問題に対しても積極的に支援し、関係強化を図っていきたいと考えております。

環境活動

長年の懸案であった総合的な排水対策として、排水終末処理施設を完成させ、2013年8月から稼働を開始しました。これにより、工程水のみならず当社敷地内に降った雨水の全量が、この施設で処理された後に公共水域に排出されます。地域の方々に更に安心していただける環境の整備をすることができ、当社にとって、この地域での事業継続のための重要な施設の一つが完成したと考えております。今後は、処理水を出来るだけ排水することなく再利用を推進し、更なる環境負荷の低減に取り組んで参ります。

社会貢献

当社は、東日本大震災の被災地への支援について、引き続き取り組んでいきます。被災地の復興は道半ばであり、今後も道路などの整備を含め多くの支援が必要で

す。当社は、東北地域を拠点とする企業として、当社のフェロニッケルスラグを加工した路盤材の活用をはじめ様々な形で復興を支援できればと考えております。

また、地域貢献として、以前フェロニッケルスラグを埋め立てていた

最終処分場の跡地を、八戸を本拠地とする東北社会人リーグ1部のサッカーチーム（ヴァンラーレ八戸FC）のサッカーグラウンドとして提供いたしました。2013年6月には関係者や子供たちの参加の下、40,000枚の天然芝の苗を植え付け、サッカー場として整備、完成しました。ここでサッカーに励んだ子ども達が、将来Jリーグで活躍するようになれば、それは私にとっても当社にとっても望外の喜びです。

今後に向けて

2013年度より、品質・環境・安全の3つのマネジメントシステムを統合し、統合マネジメントシステム（Integrated Management System：以下、IMS）として、効率性と有効性の向上を図って参ります。そこで、IMS方針を2013年3月13日に制定し、IMSによる管理活動を開始しました。このIMSによりマネジメントシステムの更なるブラッシュアップ、スパイラルアップが図れるものと期待しております。

今後とも、環境活動は生産活動と一体であることを認識し、持続可能な社会に向け、社員一丸となって取り組んで参ります。

大平洋金属株式会社
代表取締役社長

東洋幸